



第72回日本心臓病学会学術集会
ランチョンセミナー20 (LS20)

心不全診療における 分子イメージングの活用

座長

三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学

土肥 薫 先生

演題・演者

心不全診療におけるMIBG心シンチグラフィの有用性 ～古くて新しい心不全評価法～

滋賀医科大学 臨床研究開発センター 笠間 周 先生

演題・演者

心不全診療におけるプラクティカルな 核医学検査の活用法

日本大学病院 循環器内科 松本 直也 先生

●日時・会場

2024年 9月29日(日)
12:00~12:50

第11会場 (仙台国際センター展示棟 1F 会議室3)
〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山

※当日、先着順でのご入場となります。
整理券・事前予約制ではございません

共催

第72回日本心臓病学会学術集会 / 日本心臓核医学会 /
PDRファーマ株式会社

日本心臓核医学会 入会案内

日本心臓核医学会は1998（平成10）年10月に発足しましたが、心臓核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり広く循環器病の診断と治療に貢献することを目的としています。具体的な活動としては、年一回の学術大会の開催、心臓核医学会機関誌の発刊、ホームページの開設、学会賞・若手研究者奨励賞の創設などを行い、さらに英文誌Annals of Nuclear Cardiologyの発刊を含めて、心臓核医学の発展のために積極的に取り組んでまいりました。

また、関連学会の日本循環器学会、日本核医学会、日本心臓病学会等と連携を密にし、学会開催中には共催でジョイントセミナー・シンポジウムを開催しております。

心臓核医学の地域別教育研修会は2007（平成19）年から全国を8地域に分けて開催されており、毎年1000人ほどの先生方にご参加いただいておりますが、本冊子はその研修会で使用されるテキストです。本研修会の中で心筋SPECTおよびPETの基礎および各論についての講義を設け検査の意義を学んでいただき、実際に症例の読影を経験いただくことも行っています。

心臓核医学は診断や予後に関するエビデンスが豊富で、治療戦略を立てる上でのゲートキーパーとして非常に重要な検査として位置づけられています。また、多くの画像検査方法が進歩する中でも、虚血を直接画像化し、心機能を評価し、代謝を画像化することの重要性が認識されてきました。しかし、残念ながら本邦では欧米に比べると十分に臨床で活用されているとはいえません。

是非、多くの先生方に心臓核医学検査の有用性をご理解いただくとともに、心臓核医学会の趣旨にご賛同いただき、ご入会を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

日本心臓核医学会

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.jsnc.org/>

日本心臓核医学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル

Tel:03-5291-6231 Fax:03-5291-2176 E-mail : jsnc@shunkosha.com